

(教育方針)

心身共に健全な幼児の発達のために適切な環境のもと集団生活を通して幼児の自主性を育み豊かな人間性を養うべくこの時期に必要な諸能力の開発を助長し時代の変化に対応できるみらいの子どもを育てる幼児教育を推進する。

(教育目標)

丈夫なからだで元気よく、豊かな心でたくましく、みんなと仲良く遊べる子

(重点的に取り組むべき目標や計画)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を踏まえ安心安全な生活を配慮する中で子どもたちが伸び伸びと活動できる環境を整え自主性を育む。

1、評価項目の達成および取組状況

評価項目	取 組 状 況
I 保育の計画性	・自分の保育と評価、反省について次の保育と計画に生かせるよう行っている。 ・同学年同士の先生と子どもの変化についての情報をその都度、伝え合い具体的に次に行うことを話し合っている。
II 保育の在り方・ 幼児への対応	・幼児をほめたり励ましたり、めあてをもたせるような言葉をかけている。一つ一つの行動をほめたり言葉をかけることで認められているという感覚が持てたようで信頼関係を築くことができた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の予防から視診、検診、発熱時の隔離、保護者の連絡等きめ細やかな対応が行えた。
III 保育者としての 資質や能力・良識・ 適性	・保育者の人間性が子どもたちに影響することを自覚し良識とマナーについても心得、明るく振舞い挨拶や感謝の気持ちを言葉で伝えている。 ・幼児や教育、保育に関する情報を日ごろから得ようとしている。
IV 保護者への対応・ 守秘義務	・保護者からの質問に明確に答えられない時「確認します」と保護者に伝え園長に聞いてから折り返し伝えている。 ・保護者からの質問、要望等を真摯に受け止め早急に対応し保護者との情報交換の内容は記録するようにしている。また、業務上知り得た情報は園内のみで共有し、秘密保持に努める。

2、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために例年のように行事を行うことが難しくなり学年での活動や園全体での行事ができないため他クラス、学年との交流が少なく残念だった。

・行事等クラスごとの開催となった分クラスでの活動が落ち着いて過ごせ、クラスの仲間意識、連帯感が例年以上に高まったように思う。またコロナ禍で行事の縮小や内容を変更し安全性と子どもたちの指導、子どもたちが楽しめる内容を両立することがバランスよくできた。

・時間にゆとりが持てたことからクラスの子どもの興味関心、成長から自発的な活動の取り組みができた。(夏祭り金魚すくいごっこ、紙粘土でお団子作り、ハロウィンごっこ、クリスマス制作、おひな様制作等)。

・正門の整備を行いオートロック、インターフォン、カメラの設置をしたことから外部からの侵入を防ぐことができ保護者からも安全、安心感を得ることができた。

3、これから改善したいこと

評価項目	具体的な取組状況
Ⅱ 保育の在り方・ 幼児への対応	・他のクラスや他学年と集まって活動に取り組むことができなかったことから他のクラスの子どもたち（クラス全体）の姿がつかめなかった。今後についても新型コロナウイルス感染症拡大防止のため他のクラスの交流は難しいがしっかりした情報交換を行いお互いに子どもの成長について話し合う機会を増やし保育の在り方や対応について共有していきたい。
Ⅲ 保育者としての 資質や能力・良識・ 適性	・保育に携わる者として知識にしても技能にしてもまだ十分持っていることにはならないので身につけていく。
Ⅵ 保育の専門性に 関する研修・研究へ の意欲・態度	・今年度は外部の研修会がほとんど中止になってしまった。新規採用研修はリモートでの実施だったので実際の参加機会がなかった。今後も同様のことがありうるので研修用の DVD を活用し園内研修の充実を図りたい。
Ⅷ 地域における子 育て支援	・子育て支援としての預かり保育では2号認定が増加し毎日20人前後の利用がある。1号認定もおり多いときは合わせて30人を超える日もあり満3歳児の利用も増えてきているので怪我や事故につながらないように目の行き届く人員体制を整えていく。また、お迎えの時間の変更等も生じてきているので事務所と預かりの担当職員との連携もしっかり行っていく。

4、学校関係者の評価

1、自己評価で設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか

・自己評価をグラフなどでわかり易く捉え、その上で目標や課題を設定しているところから適切であると思う。

2、自己評価の結果の内容は適切であったか

・今年度は昨年度の反省を踏まえ3段階の評価を4段階にしたことによって評価の傾向がわかり易く客観的に評価されていることがわかり適切であると思う。

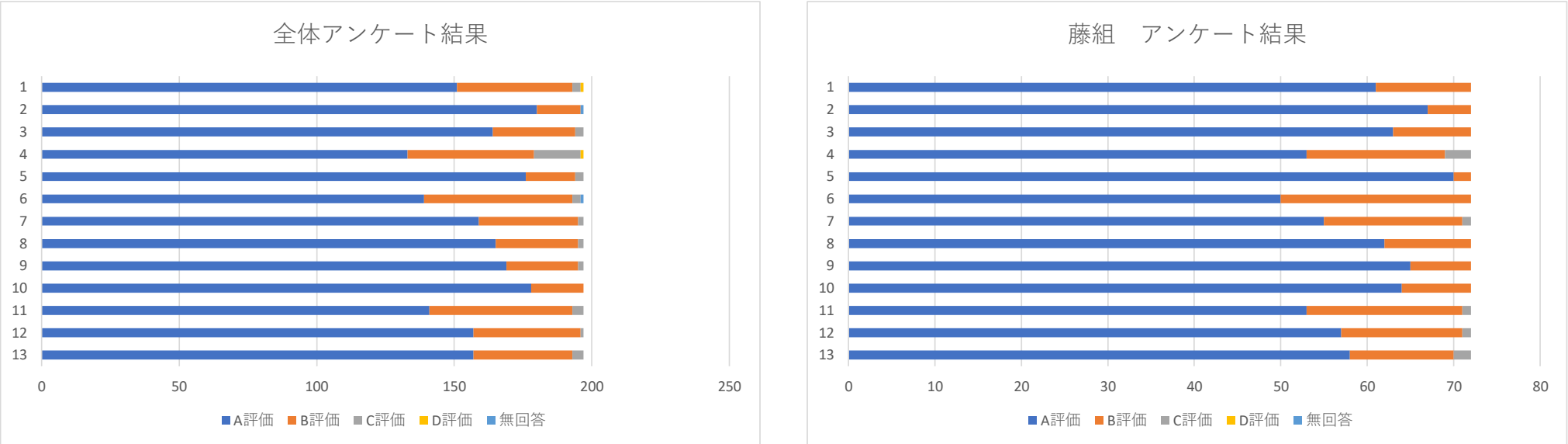
3、自己評価に対して今年度取り組むべき課題は適切であったか

今年度は、コロナ禍の影響で通常の保育が難しかったと思われるが行事の縮小や内容を変更し、安全に楽しく子どもたちが過ごせるように保育を工夫している様子も伺え課題にも適切に取り組んでいたと感じた。

4、今後の取り組むべき課題は適切に設定されているか

・幼稚園の正門をオートロックにして防犯の見直しをしたことにより安心感につながった。
・コロナ禍もあり通常の保育が行えない中、それらを踏まえた上での課題設定をされているため適切だと思う。

自己評価にあたって保護者アンケート結果



- 番号
- アンケート内容項目
- 1

お子さんは幼稚園に行くのを楽しみにしている
- 2

お子さんは先生を慕っている
- 3

お子さんは幼稚園で友達との関わりを楽しんでいる
- 4

お子さんは幼稚園の出来事を家で話している
- 5

お子さんは諸行事に喜んで参加している
- 6

お子さんは幼稚園生活で自主性がめばえたと思う
- 7

教師は子ども達の良い所を見つけ伸ばそうとしている
- 8

教師はお子さんの幼稚園生活をよく見ている
- 9

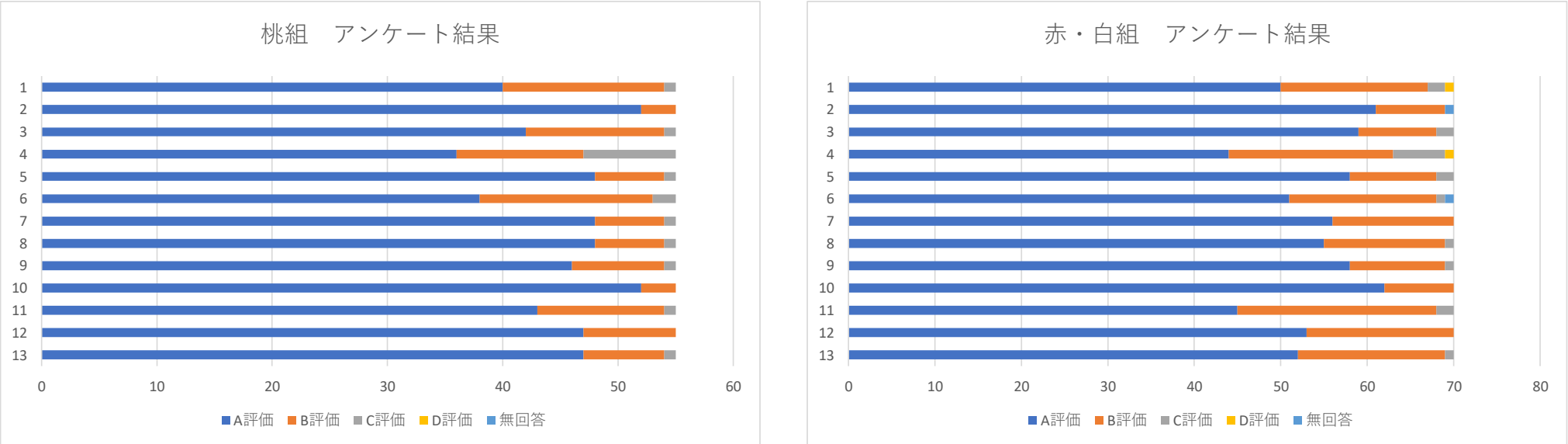
教職員はお子さんの健康や安全確保に努めている
- 10

幼稚園の雰囲気は明るい印象が感じられる
- 11

幼稚園と保護者の連携がとれている
- 12

幼稚園は環境設備に配慮している（園舎・園庭・遊具など）
- 13

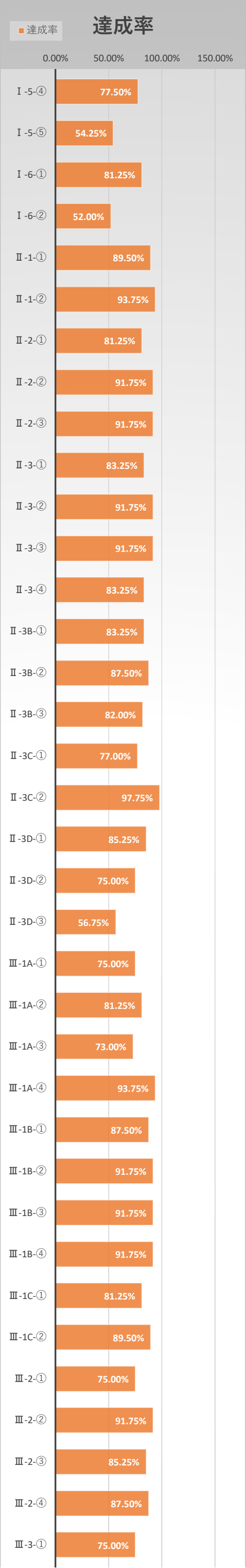
幼稚園のおたより、通信などわかりやすく伝えている



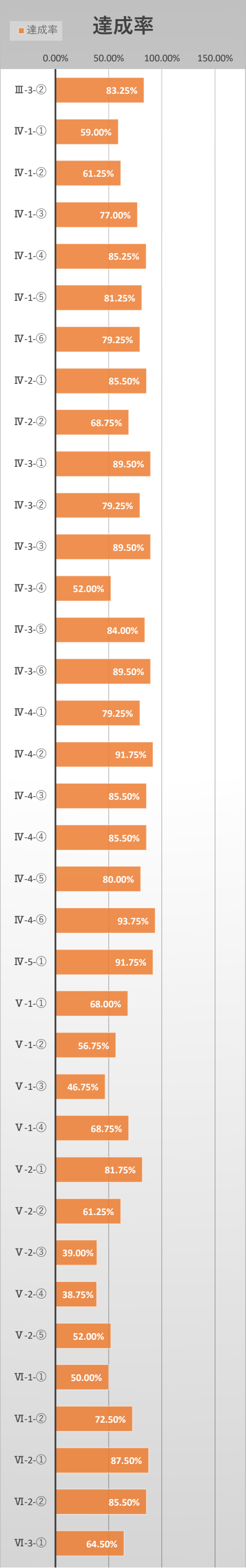
自己評価結果

項目番号	大分類	中分類	項目	達成率
I -1-①	保育の計画性	1.園の教育理念・教育方針の理解	園の教育理念や教育方針を理解し共感している	I -1-①75.00%
I -1-②			園の方針、園長の考え方について園長や主任と話し合い保護者に説明できる	I -1-②68.75%
I -2-①		2.幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解	幼稚園教育要領、幼児の姿や環境の構成、保育者とのかわりなど具体的な事例を思いうかべることができる	I -2-①70.00%
I -3-①		3.教育課程の編成と評価	園の教育課程は、幼稚園教育要領・保育所保育指針をふまえ園の教育理念・教育方針に従い編成している	I -3-①75.00%
I -3-②			1年間の子どもの成長を振り返り、教育課程を評価している	I -3-②80.00%
I -3-③			園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	I -3-③80.00%
I -4-①		4.指導計画の作成	指導計画は、幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している	I -4-①81.25%
I -4-②			行事は、幼児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている	I -4-②80.00%
I -5-①		5.環境の構成	指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている	I -5-①83.25%
I -5-②			楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている	I -5-②81.25%
I -5-③			幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている	I -5-③77.50%

項目番号	大分類	中分類	項目
I -5-④			幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている
I -5-⑤			異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている
I -6-①		6.保育と計画の評価・反省	自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている
I -6-②			お互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている
II -1-①	II 保 育 の 在 り 方 、 幼 児 へ の 対 応	1.健康と安全への配慮	朝の登園時は特に視診を大切にしておて幼児の体調が悪くないかを確認している
II -1-②			体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している
II -2-①		2.幼児のみとりと理解	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している
II -2-②			一人の幼児をじっくりと見ながら見えない所で活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる
II -2-③			個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる
II -3-①		3.指導とかかわり〔心のよりどころとして〕	幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている
II -3-②			幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている
II -3-③			幼児の話をよく聞くようにしている
II -3-④			“一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている
II -3b-①			幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイディアを提供している
II -3b-②			幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている
II -3b-③			禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている
II -3c-①			幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている
II -3c-②			障がい児が入園した時、個別的対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている
II -3d-①		4.保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を共有している
II -3d-②			指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている
II -3d-③			他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れている
III -1a-①	III 保 育 者 と し て の 資 質 や 能 力 ・ 良 識 ・ 適 性 「 専 門 家 と し て の 能 力	1a.専門家としての能力	保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている
III -1a-②			保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている
III -1a-③			保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている
III -1a-④			保育者の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している
III -1b-①		1b.良識とマナー	幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている
III -1b-②			朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている
III -1b-③			園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない
III -1b-④			服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている
III -1c-①		1c.義務	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している
III -1c-②			締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている
III -2-①		2.組織の一員としての在り方	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる
III -2-②			子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している
III -2-③			当番や役割による仕事を理解し確実にしている
III -2-④			上司の指示、命令には責任を持って実行している
III -3-①		3.まわりを感じ取る感	幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている



項目番号	大分類	中分類	項目
Ⅲ-3-②	Ⅲ	性・アンテナ	社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている
Ⅳ-1-①	Ⅳ 保護者への対応・守秘義務	1.情報の発信と受信	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している
Ⅳ-1-②			クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用してわかりやすく伝える工夫をしている
Ⅳ-1-③			個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝え合い共通理解を得るように努めている
Ⅳ-1-④			子どもにとってよりよい環境づくりに努めている
Ⅳ-1-⑤			保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している
Ⅳ-1-⑥			子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている
Ⅳ-2-①		2.協力と支援	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談をしている
Ⅳ-2-②			必要な場合は、自園の問題の対応や手段について保護者に説明できる
Ⅳ-3-①		3.守秘義務の遵守	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない
Ⅳ-3-②			秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない
Ⅳ-3-③			秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している
Ⅳ-3-④			秘密情報の帰属は園または法人にある事を認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は持ち出し届出許可書にて園長の許可を取っている
Ⅳ-3-⑤			秘密情報の書類、電子データのコピーは施設長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している
Ⅳ-3-⑥			秘密情報について新たに知りえたことについては、直ちに園長に報告している
Ⅳ-4-①		4.対応上のマナー・良識	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている
Ⅳ-4-②			親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない
Ⅳ-4-③			電話では、簡潔に要領よく対話する事を心がけている
Ⅳ-4-④			保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している
Ⅳ-4-⑤			長期の欠席や入院等の場合には、見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている
Ⅳ-4-⑥			保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない
Ⅳ-5-①		5.クレームへの対処の仕方	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している
Ⅴ-1-①	Ⅴ 地域の自然や社会とのかわり	1.地域の自然・人々とのかわり	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている
Ⅴ-1-②			地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している
Ⅴ-1-③			子どもの医療や保健に関する問題および地域の住民から受けた子育て相談の内容について、相談および連絡先を把握している
Ⅴ-1-④			実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している
Ⅴ-2-①		2.小学校との連携	園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している
Ⅴ-2-②			小学校の教育内容について理解するよう努めている
Ⅴ-2-③			小学生が遊びにくることの出来る場（行事等を含む）を設けている
Ⅴ-2-④			卒業した子どもの情報を得るよう努めている
Ⅴ-2-⑤			小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するよう努めている
Ⅵ-1-①	Ⅵ 保育者の専門性への欲	1.研修・研究への意欲・態度	研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている
Ⅵ-1-②			自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他保育者や主任、園長と話し合っている
Ⅵ-2-①		2.遊具・教材に関する専門性の向上	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている
Ⅵ-2-②			園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる
Ⅵ-3-①		3.園内の環境に関する専門	園舎の構造（平屋、二階建て）や保育室・遊戯室の位置・大きさがどのような教育的な意味をもつか理解している



項目番号	大分類	中分類	項目
VI-3-②	・ 態 度 に 関 す る 研 修 ・ 研 究 へ の 意	性の向上	園庭や田畑、砂場、かくれ場所などの位置、広さなどがどのような教育的な意味をもつか理解し、保育に生かしている
VI-4-①		4.今日的課題に関する専門性の向上	子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている
VI-4-②			アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている
VI-4-③			幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている
VI-4-④			こどもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている
VI-5-①		5.自らを高めるための学習	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある
VIII-1-①	お VIII て け る 地 支 援 子 域 援 育 に	1.自園の子育て支援事業の理解（全教職員）	地域開放(親子保育園体験日・行事など）について職員間で共通理解の上取り組んでいる
VIII-1-②			自園の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明できる
VIII-1-③			親しみやすい雰囲気をつ心がけ、利用者に積極的に声をかけている

